クレアソウル

Counsil of Local Authorities
for International Relations, Seoul

2011
NEWS TODAY VOL. 5

震災後の対日観と、これから行う効果的な誘客等の交流活動

にほんのあっちこっち

ホ・ヨンマン画伯の旅行記「食客ホ・ヨンマンのおいしくくつろぎました」

SBS 좋은아침：良い朝

キラリと光る県産品・企業をソウルに売り込め

韓国地方行政研究院との研究会・シンポジウムの共同開催

韓国CIRを活用して、韓国との関係強化を

行政中心複合都市「世宗市」が新たに誕生します

震災後の対日観と、これから行う効果的な誘客等の交流活動

クレアソウル事務所　次長　**大西 公一郎**

1 震災直後～現在の韓国内の報道、訪日旅行、物産輸入の状況

震災直後の韓国社会の反応

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、韓国においても隣国の痛ましい大災害として報じられ、李明博大統領が国民向けにメッセージを発するとともに駐大韓民国日本国大使館を弔問するなど、最大限の追悼と支援の気持ちが示されました。自治体レベルでは、姉妹都市交流のある都市間で多くの支援が行われた他、多くの自治体で募金活動が行われました。また、民間でも支援の輪は広がり、街のあちこちで日本の復興を願う横断幕が張られ、募金が行われました。たとえば当事務所の隣の診療所からも募金が寄せられるという嬉しい出来事もありました。

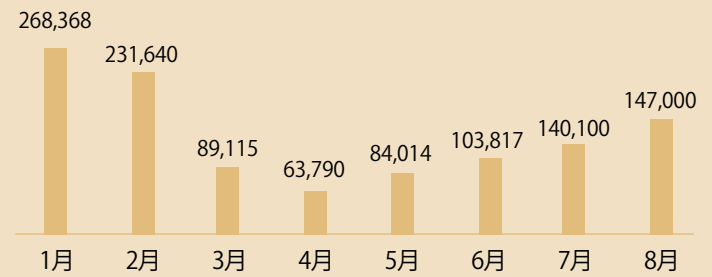
一方、隣国であるがゆえに、大震災後の原子力発電所の事故に対する批判や対応は厳しいものがあり、「放射性物質を含んだ雨が降る」などという誤った見込み・報道により 、一部地域では学校が休校になったり、傘や合羽を使う人が増えるなどといった状況が生じました。また、食品関係でも非常に関心が高まり、魚市場で日本産の魚を韓国産と偽っていないかといったチェックが行われる状況が報道されたりしました。

日本の復興を願う横断幕

旅行広告、商品の状況

日韓の交流人口は、2010年度に530万人(訪日200万人、訪韓330万人)を超え、2011年度も過去最高を期待されていました。それが3月は前年比47.4%減 の8万9千人、4月は前年比66.4%減 の6万3千人であり、新聞等での旅行広告自体がほとんど行われない状況でした。6月以降、広告数は増えてきましたが、さらなる観光客誘致を図るためには、共同での誘客プロモーション等、一層効果的な取組みが求められます。

2011年　韓国人訪日者数（人）



※日本政府観光局（JNTO）統計より作成（7月と8月の数値は推計値）

現状（10月）

自治体や各種団体の様々な取組(4P参照)に加え、日本各地が震災前の日常を取り戻している姿 、お祭りやスポーツ等を楽しむ姿が韓国でも報道されたり、韓国人旅行客のブログ等で紹介されるに従い、訪日旅行に対する不安感は払拭されつつあります。日本向け旅行の広告も掲載され、定期便の搭乗率も全体的に回復傾向にあるなど、韓国人観光客誘致には明るい兆しが出始めています。しかし、依然として日本を訪れる韓国人は昨年比で減少しており、アンケート調査によると、夏期休暇の旅行先に日本を選ぶ人の割合は、昨年の半分以下という結果でした(韓国交通研究院)。日本政府観光局（JNTO）は、2011年の韓国からの訪日旅行客を秋には前年比70%～80%、冬には前年並みの水準にまで戻ると推測しています。

一方、食品等に対する不安は根強くあります。原子力発電所の事故に関する報道は減少していますが、新たに放射性物質が検出された等の報道は韓国でも大きく取り上げられ、韓国国民の警戒心を高めています。日本酒であっても「震災前に作られたものか」といった問い合わせがあります。

日本向け旅行広告(毎日経済)

2　これから行う誘客活動のポイント

訪日旅行に対する不安感の払拭や、厳しい環境にある旅行会社の支援といった取組も必要ですが、より効果的な誘客活動を行うポイントはこのようなものではないでしょうか 。

安全の強調より楽しさのアピール

訪日観光客の不安を払拭することは必要ですが、「安全」を求めて訪問する観光客はいません。観光客が求める各地域の「楽しさ」「面白さ」といった明るい情報を発信していくことが重要です。

震災後に開催されたお祭りなどのイベントや、国際的なスポーツ大会の実績などもアピールになります。

訪日観光客の視点に立った複数観光地の連携

韓国からの観光客は、ゴルフや登山などのアクティビティを除くと、一ヶ所に留まるより、複数観光地を巡る傾向があります。また、我々が韓国の地方都市をよく知らないのと同様に、個別の自治体がプロモーションによって知名度を高めることは困難です。広報効果の高い広域連携によるPRが効果的です。

韓国人の特徴を捉えたアプローチ

一人当たり国民所得が2万ドルを越えた韓国では、日本への個人旅行やリピーターが増加しています。彼らは「食事」「温泉」のほか、「ゴルフ」「登山」などのアクティビティも好みます（JNTO調査）。

また、そういった情報をインターネットのブログ等で収集する傾向が強く、ネット上のアピールも重要です。

3　やっぱり韓国人は日本の食や文化、自然が好き

韓国には日本が溢れています。

日本の大手寿司チェーン店が最近ソウルに進出し、地元客で大盛況です。日本にお馴染みのとんかつ料理店やカレーショップ、居酒屋も見かけることができます。その他、「居酒屋」「おでん」「焼き鳥」などの日本語で書かれた多くの看板が夜の街を彩っています。香港の日本料理店の状況とは異なり、震災後に、これらのお店の客足が遠のいた、閉店したという話は聞きません。

また、日本のアニメもテレビで放映され大人気です。旅行展覧会のPRブースでは、漫画「名探偵コナン」のイラストの入った自治体のパンフレットが飛ぶようにはけ、パネルにも多くの人が集まり、その人気に驚かされます。

日本に関する様々なイベントも開催されており、「ハイソウルフェスティバル」（5月9日）や「日韓交流おまつり」（9月25日）では、多くの韓国の方々が浴衣に袖を通すなど日本の文化に親しみを持って接していました。

今は、放射能の影響が少し不安なため、多くの韓国人は訪日を躊躇していますが、やっぱり韓国人は日本の食や文化、自然が好きなのです。日本に行くタイミングを待っているのです。もう一度日本へ足を運んでもらうために、明るい日本を粘り強くPRしていくことが大切です。

4 様々なセールス活動

展示会への出展

「2011ハナツアー旅行博覧会」（KINTEX）や「KOTFA観光博覧会」（COEX）において、日本の自治体がブース出展を行い、日本に対する不安感の払拭、更なる魅力のアピールに努めました。

現地旅行会社は、東北、関東の状況についての関心もさることながら、ツアー先の開拓としてこれまで関心の薄かった地域への関心も高めており、日本各地に関心を広める好機でもあるようです。抽選会等のイベントを始めると、来場者が即座に反応して大行列ができ、参加型イベントも大いに賑わいました。

「どうしても行きたい」と詳細に聞いてくる方もいらっしゃり、会場は多数の来場者で熱気に包まれました。

【自治体の活動を支援を行いました】

上記のような旅行展示会を含む様々なイベントに、自治体の支援依頼に基づきソウル事務所職員も参加しPRに取り組んでいます。

・浦項国際花火大会での出雲市PR
・富川国際漫画祝祭での鳥取県PR
・釜山国際観光展での静岡県PR　等

※ このほか、クレアソウル事務所では、韓国の著名漫画家ホ・ヨンマン画伯やマスコミによる日本の魅力発信事業により、訪日観光客回復に向けた取組みを実施しています。詳細は6Pをご覧ください。

トップセールス・広域連携プロモーション

2011年5月18日～19日に、九州各県の知事・副知事が参加しての九州観光推進機構による韓国観光プロモーションが、9月18日～20日には京都府知事等が参加しての関西広域連合によるプロモーション活動が行われました。その他、自治体トップによる韓国旅行会社等への訪問や街頭PR活動が盛んに行われています。

2011年度自治体からの支援依頼

クレア海外事務所では、地方自治関係者（自治体の職員等）が海外で行う様々な活動の支援(海外活動支援）を行ったり、自治体等の事業に必要な海外の情報や行財政制度等を調査・収集し、情報提供（海外依頼調査）を行っています。

2011年度上半期に、クレアソウルでは、以下のような活動で来韓されたみなさまのサポート及び日本・韓国からの依頼に基づく情報提供を行いました。

自治体の海外活動支援

【2011年4月～9月実施分】

来韓の主な目的	件　数
・観光プロモーション	33
・親善交流	8
・視察研修	5
・物産販路開拓	4
・その他経済関連事業	8
合　計	58

海外情報調査依頼の一例

【2011年4月～9月実施分】

日本からの依頼	韓国からの依頼
・韓国における外国人受入の考え方及び査証・在留資格制度	・日本の地方消費税の配分方法
・韓国における付加価値税の減免状況	・日本酒の韓国への輸出量の割合
・ソウル市及びその近郊における工業団地について	・日本の環境先進都市の紹介
・韓国の観光上陸許可制度について	・日本の高等学校での韓国語学習
・韓国での日本酒販売の状況について	・日本での行政苦情に対する機関について
・ソウル市の観光関連事業予算について　等	・日本自治体における行政改革の先進事例　等

★にほんのあっちこっち★

韓国著名漫画家による日本の魅力発信

韓国の著名漫画家ホ・ヨンマン画伯が、2011年度も日本の各地を取材し、食や自然、さらには伝統文化について各地域の持つ魅力を韓国に向けて発信しています。
今年度取材した3地域での様子をご紹介します。

事業概要

取材期間：5~6日程度
取 材 団：ホ・ヨンマン画伯を含む4名程度
PRの方法：韓国の旅行雑誌、単行本書籍 等

実施状況

2011年度は、10月現在、①沖縄県 ②三重県 ③富山県を取材しました。今後、④石川県⑤宮城県 ⑥新潟県 を取材する予定です。
※昨年までの実績（2009年～2010年度）
取材回数：11回 参加自治体：1道11県3市

業務

自 治 体：取材先に関する情報の提供、取材行程の作成、アポイントメントの取付及び現場での調整（通訳含む）、取材団の取材に係る経費の一部負担
CLAIR：自治体と取材クルーとの事前調整、CLAIR職員の現地取材サポート、取材団の取材に係る経費の一部負担

AB-ROAD

韓国の海外旅行情報誌「AB-ROAD」に、
本事業取材団の取材 記事が掲載されました。

○沖 縄 県：2011年 8月号　8P
○三 重 県：2011年 9月号　8P
○和歌山県：2011年11月号 (予定)

沖縄
Okinawa

「食」にこだわり、「文化」を体験し、「出会い」を楽しむ。

ホ・ヨンマン 画伯 の取材ではいつもそうですが、今回の「沖縄」もこの３つのテーマを中心に取材を行いました。「沖縄」は日本人にとっても人気の観光地、ホ・ヨンマン画伯をはじめ取材団の皆さんは、日本の中でも異国情緒あふれる沖縄への期待に胸を膨らませて取材に臨みました。

「食」　有名なアグー豚を使った「豚料理」をはじめ、「沖縄そば」、こじんまりとした食堂で食べた「モズク」、「ゴーヤーちゃんぷる」などの家庭料理はもちろん、高級感あふれる宮廷料理までもどこか素朴な田舎の味で、ゆっくりゆっくりとゆとりのある沖縄の人の性格がそのまま溶け込んでいる、穏やかな沖縄の味に惚れたと、刺激の強い味に慣れているホ画伯は微笑んでいました。

「文化」　「斎場御嶽」、「首里城」、「万座毛」、「中村家住宅」では琉球王国時代の沖縄を、活気溢れる「国際通り」、「平和通り」、「マキシ公設市場」や世界最大級の水槽を誇る「美ら海水族館」などでは沖縄の今を見ることが出来ました。また、沖縄をまるごと体験できる「おきなわワールド」では、沖縄の文化・歴史に触れるひとときを過ごしました。

「出会い」　長寿の村、大宜味村では若々しく元気な93歳の平良澄子おばあさんのお話が聞けました。「一生杖もつかず、丈夫な足で歩く」、「いつも自ら栽培した野菜を調理して食べる」、「補聴器も要らない」という平良さん。元気で大きな声で歌を歌いながら踊りながらの今回の取材では、取材陣の皆さんが元気をいっぱいもらえた愉快な時間となり、「年齢はただの数字に過ぎない」という言葉を実感できました。

自然豊かな沖縄で4泊5日の取材を終え、ホ画伯が「こんなに美しいところで、こんなに体に良い食べ物を食べて、長生きしないことは裏切りだよ。」とポッツリと話しました。

この天国のような心癒される美しい沖縄をより多くの韓国人観光客が訪問するように韓国に向けてしっかりPRしてまいります。

日程

5/27(金)　斎場御嶽、おきなわワールド、郷土料理
5/28(土)　首里城、国際通り、平和通り、マキシ公設市場
5/29(日)　長寿の村、沖縄の宮廷料理
5/30(月)　美ら海水族館、万座毛、
5/31(火)　中村家住宅見学

27日

28日

29日

30日

31日

三重

Mie

韓国でのモータースポーツは2010年「F1韓国グランプリ」開催を機に人気が上昇しています。三重県では日本が誇るモータースポーツの一つ「鈴鹿8時間耐久レース」を観戦・体感しました。8時間の中には色々なドラマがあり、その都度観客は一喜一憂し、ホ・ヨンマン画伯からは最後のゴール時に得られる観客とライダーとの一体感に感動したとのコメントもありました。

古くから「神宮」といえば伊勢の神宮をさすと言われ、最も尊いお宮と敬まわれる「伊勢神宮」に詣でました。神宮は皇大神宮（内宮）と豊受大神宮（外宮）の両正宮を中心として古来より伝わる神聖な雰囲気を漂わせており、案内人に連れられ宇治橋を渡るホ画伯は神妙な面持ちで説明に耳を傾けデッサンをとっていきます。特に「神馬牽参(しんめけんざん)」の神馬のお辞儀をする仕草に興味をひかれた様子でした。

伊勢には「朔(つい)日(たち)参り」という風習が今も引き継がれており、おかげ横丁の「赤福」にて「八朔(はつさく)」（八月朔(つい)日(たち)）を食しました。餡子(あんこ)を餅の中に入れて食べるのではなく、餅の周りに黒砂糖餡をのせるスタイルにはホ画伯も驚きました。同行したカメラマンにもこの八朔は珍しかったようで大変興味を持って撮影を行っていました。また、画伯は、伊勢うどんとその歴史の説明を聞きながら食べたのですが、つゆが少なくやわらかい伊勢うどんの食感に独特なものを感じてたいへん興味を示していました。

ミキモト真珠島は明治26年（1893年）に御木本幸吉氏が世界で初めて真珠の養殖に成功した島であることを知ってホ画伯は大変感銘を受けていました。真珠博物館では真珠養殖の歴史や真珠を作る工程を見学し、真珠養殖には欠かせない「海女さん」の実演も見ることができ、熱心にデッサンしていました。

その後「海女小屋」に移動して海の幸を頂いたのですが、ここでは現役の海女さんとの出会いがありました。海女さんが苦労話や体験談を楽しくおかしく話され、ホ画伯も時間を忘れて楽しい交流のひと時を過ごしました。

三重県と言えば「松阪牛」です。すき焼きで食しましたが、煮込むように炊いてしまうと牛肉本来の味が失われてしまうので、すき焼き鍋を使って焼くように煮るのがコツであると説明があり、ホ画伯は、その「焼くように煮る」という食文化にうなずきながらデッサンをしていました。納得の笑みと共にとても美味しかったとのコメントがありました。

三重県では、日本の文化・歴史を「体験」し、「食」にこだわり、「出会い」を楽しめる取材になりました。

日程

7/30（土）	伊賀流忍者博物館
7/31（日）	鈴鹿サーキット
8/1（月）	おかげ横丁、伊勢神宮、おはらい町、ミキモト真珠、海女小屋
8/2（火）	夫婦岩、松阪牛

30日

31日

1日

2日

富山

Toyama

「富山」では、「海の貴婦人」「富山湾の宝石」とも呼ばれている「白エビ」料理の他、「富山ブラックラーメン」「高岡コロッケ」といったB級グルメまで、特色ある富山県の食文化を取材しました。

海の幸豊富な富山湾でとれた白エビ料理に、ホ・ヨンマン画伯は感激をしたようで、大変おいしいと何度も頷いていました。東京ラーメンショーで2年連続1位を獲得した富山ブラックラーメンは、ラーメン好きが多い取材団一行に大変好評でした。

食以外では、「立山黒部アルペンルート」「五箇山合掌造り集落」など国際的な観光地を取材・体感しました。立山黒部アルペンルートの雄大な自然、五箇山合掌造り集落の日本の懐かしい風景を前に、ホ画伯のスケッチの手は止まることはありませんでした。

また、富山は山だけでなく海も体験できるのが魅力です。「内川遊覧船」では、人懐っこく追いかけてくるカモメに、ホ画伯は連日の取材の疲れを忘れ、夢中で餌をあげていました。

帰国前日の五箇山合掌造り集落での夕食は、囲炉裏を囲んでの食事でした。このような体験は初めてだというホ画伯は、日本の伝統文化を体感しとても感銘を受けたのか、まるで一つの家族であるような取材団一行と、夜遅くまで富山の魅力について語り合いました。岩魚の串焼きを大変気に入っていたのも印象的でした。

富山県は初めて来たというホ画伯でしたが、山と海の大自然や、日本の伝統文化、さらには富山の食を存分に体験・取材し、季節を変えてまた来たいと笑顔で話していました。

今回の事業の富山県取材、その後のPRを通じ、韓国から魅力溢れる富山県への観光客が増加につながれば幸いです。

日程

9/30(金)	黒部峡谷鉄道
10/1(土)	池田屋安兵衛商店、富山ブラックラーメン、高岡大仏、内川遊覧船、白エビ料理
10/2(日)	立山黒部アルペンルート
10/3(月)	立山黒部アルペンルート、五箇山和紙の里、五箇山合掌造り集落
10/4(火)	帰国

30日

1日

2日

3日

4日

単行本掲載の自治体（取材順）

第1回　秋田県
第2回　静岡県
第3回　青森県
第4回　鹿児島県
第5回　北部九州
　　（北九州市、大分市、別府市）
第6回　茨城県
第7回　長崎県
第8回　鳥取県・島根県・岡山県
第9回　愛媛県
第10回　和歌山県
第11回　北海道

クレアソウル事務所では、2009年度より、韓国の漫画家ホ・ヨンマン画伯を日本の各地域に招き、取材していただいたうえで、韓国でそれを広く紹介していただく事業を実施しています。事業開始から現在までに14回実施していますが、そのうち2009年度及び2010年度に実施した11回分（1道11県3市）について、各地の特色ある食や自然、伝統文化を綴った単行本「食客ホ・ヨンマンのおいしくくつろぎました～日本に秘められた味、温泉、人～」が2011年10月に発行されました。

ホ・ヨンマン画伯が取材先で感じた、日本の食、温泉の特色や、取材先での出会いのエピソードなどを、画伯の温かみのある漫画や、感性豊かな文章を通じて表現しており、これを一度手に取って読めば思わず日本に行きたくなる、そんな魅力のある一冊です。

ホ・ヨンマン画伯の旅行記「食客ホ・ヨンマンのおいしくくつろぎました」が発行されました！

ホ・ヨンマン画伯のコメント

このたび、2年間の取材を通じて発見した日本各地の魅力を綴った単行本を発行することとなりました。これも取材にご協力いただいたみなさまのおかげであり、この場を借りてお礼を申し上げます。取材した各地で出会った日本の食や自然、伝統文化の魅力は今でも忘れることができません。また、取材で出会ったのをきっかけに今でも交流が続くなど、素晴らしい出会いにも恵まれました。この本を通じて韓国に日本の各地域の魅力を発信することで、より多くの韓国人が日本を訪れるきっかけとなれば幸いです。

SBS

좋은아침：良い朝

韓国のテレビ放送局「SBS」のトークショーにおいて放送する韓国人芸能人の旅行記の撮影協力を行いました。

横浜市での取材内容

・撮影日程：2011年7月22日（金）～24日（日）
・撮影団：キム・シニョン、シム・ジナ他4名、マネージャー、カメラマン
・放送日：2011年8月9日（火）
・内容：

デビュー当時から親友でコメディアンの二人。横浜の三渓園や横浜・八景島シーパラダイス、中華街、赤レンガ倉庫などを舞台に楽しい旅行が始まる。

その中で、もうすぐ結婚するシム・ジナ氏への模擬結婚式をキム・シニョン氏が計画する。ケーキを買ってマリンタワーのチャペルに行きセッティング。シム・ジナ氏をマリンタワー前に呼び出し、撮影を行っていると、キム・シニョン氏の合図と共に、マリンタワーの照明がレインボーに。結婚祝いにタワーをローソクに見立てたキャンドルサービス。

その後、展望台より綺麗な夜景を見た後、収録はそこで終了と思いきや、先ほどセッティングしたチャペルへ。チャペルのドアを開けるとそこにはヴァージンロードが。ヴァージンロードを歩き、買ってきたケーキでささやかな結婚のお祝いが始まった。デビュー当時の話や、辛かった思い出などを話し出演者が泣きだす場面も・・・。

番組概要

・番 組 名：좋은아침(良い朝)
・放送時間：月曜日～金曜日　9:30～10:40
（VTRは30～40分程度）
・番組内容：1996年から15年間放送されている朝の代表的バラエティートークショー。

考察

この番組は、韓国の芸能人などの有名人が日常を離れて旅行へ行き、様々な名所・店を巡りながら、自分の近況を語ったり、はたまた人生に想いを馳せる構成となっています。特に、旅先での「サプライズ」や「対決」「体験」が重要な要素であり、視聴者はその舞台となったスポットの詳しい情報を番組ホームページから入手して、興味をかきたてるという仕組みです。

このように、マスコミを利用したPRは、その番組等の意図を十分に理解した上で、自治体がPRしたい場所やイベント、お店などを上手く番組制作側にアピールすることが重要なポイントといえます。

今回の企画は、一報からクルーの来日まで、約3週間しかなく準備時間が短いこと、夏休み最初の週末であること等を考えると見送るべきではないかとの意見もあったものの、震災後落ち込んでいる需要回復に繋がればと考え、受入を決定しました。滞在2日間という限られた取材時間の中で、こちら側として伝えたい地域の魅力を、番組側のリクエストに併せてどのようにアレンジができるか等、何度もソウル事務所の方に御協力いただきながら取材行程を修正し、最終的には来日後に要望を聞き詳細をつめていきました。

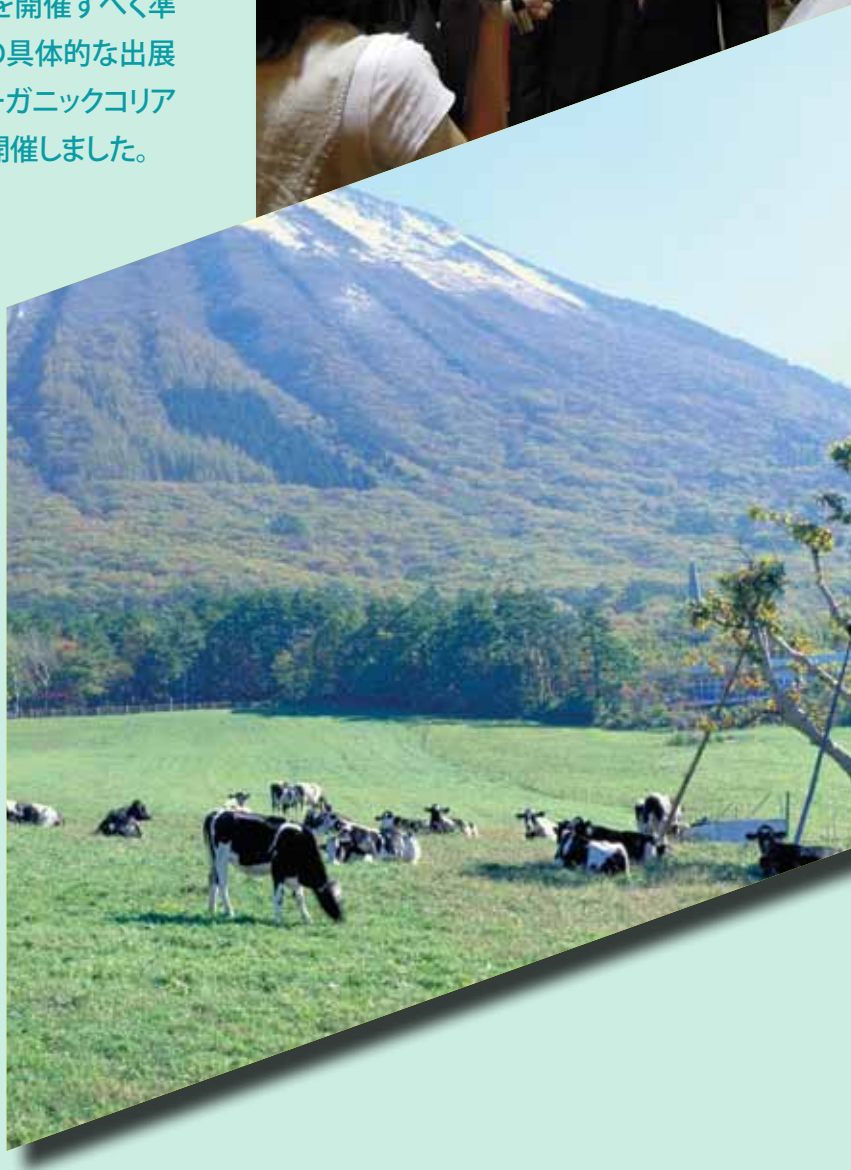
メディアの受入は、企画内容の決定から取材まで時間がないことが多いため、日頃から地域の魅力を発信するポイントやテーマ毎に紹介できる施設の整理をしておくと良いと思います。また、突然のリクエストにも柔軟に対応できるよう、地域内の施設側担当者と関係を構築しておくことが、最も重要であると考えます。

横浜市 文化観光局 集客推進課　中野 康子

キラリと光る県産品・企業をソウルに売り込め ～鳥取県輸出 商談会開催～

クレアソウル事務所では、日本各地の魅力あふれる産品を韓国に紹介して市場開拓を支援するとともに、地域の観光PRを行い、地域の総合的な魅力を発信する場として、各県とともに 地域物産展を開催しています。

2011年度も昨年度に引き続き、韓国の有名デパートである新世界百貨店において「鳥取県物産展」を開催すべく準備を進めています。去る8月、鳥取県企業との具体的な出展交渉を行うため、韓国の輸入業者であるオーガニックコリア社とクレアソウルは鳥取県に飛び商談会を開催しました。



物産展開催実績	
北海道・岩手県観光物産展	2011年2月～3月開催 (21日間)
富山県・岐阜県観光物産展	2010年10月開催 (21日間)
静岡県物産展	2010年3月～4月開催 (21日間)

8月5日（金）、鳥取県米子コンベンションセンターで「鳥取県・江原道輸出企業展示商談会」が開催されました。会場は多くの鳥取県企業と韓国江原道からやってきた企業の熱気で溢れ、活発な商談が展開されていました。

私たちはここに出展した鳥取県業者と個別に商談会を開きました。韓国における鳥取県物産展の会場は新世界百貨店を予定していますが、よりよい物産展にするためには直接業者と会い、商品を見た上で選定する過程が不可欠です。この日は14社の業者と面談。朝9時から一日がかりの商談になりました。

韓国では近年の健康志向に乗って日本食がブームになっています。しかし韓国で日本の商品を販売する場合、輸送コストや関税のため割高になってしまいます。席上、韓国側からはこの点について韓国での食材の調達によるコストダウンが提案されました。また物産展で売上を伸ばすため、「物産展会場での実演販売が可能か」、「韓国市場向きの価格や原材料の変更が可能か」等、交渉は細部にまで及びました。引き続き翌日は工場や店舗などを訪問し、製造工程や販売形態について実地にて視察しながらの商談が続きました。

二日間の商談を通じ、鳥取県の企業の熱意と、韓国でどう売っていくべきかについてのオーガニックコリア社のアドバイスが印象に残りました。日本人と韓国人とでは味覚が違うこともあり、日本で人気のある商品が韓国でも売れるとは限りません（韓国人は塩辛く、醤油の味が強い食品は苦手ですが、日本食ブームで日本のカレー、ラーメン、お好み焼きなどは受け入れられてきており、ソース味やとんこつ味も若い人を中心に人気が高まってきています）。物産展の開催には日本側の出展者と韓国側代理店との協議を重ねるとともに、それらを通じた信頼関係の構築も必要となります。

また、2011年3月の東日本大震災による原発事故以降、韓国では日本食品に対する警戒心が強まっています。今後は安全性を訴えながら販売していくことも必要になるでしょう。

おわりに：

クレアソウルでは、「鳥取県物産展」のほか、2012年2~3月頃に「香川県・愛媛県物産展」を開催する予定です。物産展を契機に、韓国内で継続販売され始めた商品もでており、日本の食品が韓国市場に入るチャンスは拡大しています。「日本とは商習慣の異なる国であり、日本企業の対応が難しい」・「外国の食を受け入れにくい食文化であるためアイテム数を増やすことが難しい」等の課題もありますが、食品や観光地PRを百貨店での物産展を通じて行うチャンスですので、韓国でのPRを行う自治体のみなさまにご利用をおすすめします。

物産展開催までの流れ（準備期間 約６ヶ月）

- ５月　鳥取県が出展希望者を募集し商品をリストアップ
- ６月　鳥取県業者がサンプルをオーガニックコリア社に送付
- ７月　リストから韓国で売れそうな商品を選定
- ８月　鳥取県で商談会開催
- ９月　販売商品決定・発注
- 10月　輸出入・通関手続き
- 11月　物産展開催

韓国地方行政研究院との研究会・シンポジウムの共同開催

クレアソウルでは2009年12月に、韓国の地方自治に関する総合的な政策研究機関（政府系機関）である「韓国地方行政研究院（KRILA・クリラ）」と「協力及び情報交流に関する協約（MOU）」を締結し、昨年度から共同で研究活動やシンポジウムの開催を行っています。

2011年度は災害分野をテーマとして、6月と8月に「共同研究会」を開催しました。11月には「2011クレア・クリラ共同セミナー」と題して、共同研究会の集大成としてシンポジウムを開催する予定です。

第1回共同研究会（2011年6月17日、韓国地方行政研究院にて開催）	
韓国側	○韓国地方行政研究院研究委員　ハン・ブヨン 氏 「韓国の災難・安全管理機能」 ○韓国消防防災庁国立防災研究所室長　シム・ジェヒョン 氏 「韓国の災難・管理体制」
日本側	○自治体国際化協会ソウル事務所　安本 俊夫　所長 「地震災害からの復旧・復興」 ○自治体国際化協会ソウル事務所　大西 公一郎　次長 「東日本大震災の概要及び日本の防災体制」

韓国側からは、気象予報技術、災害警報技術の向上への取り組みなどが紹介されました。日本側からはクレアソウルの安本所長が過去の阪神淡路大震災と鳥取県西部地震からの復興の取組事例を、大西次長が東日本大震災の概要と日本の防災体制について概略的な発表を行いました。

第2回共同研究会（2011年8月25日、韓国地方行政研究院にて開催）	
韓国側	○韓国消防防災庁民防衛課長　ユ・ジェオク 氏 「実践中心民防衛システムの全面補強」
日本側	○総務省消防庁消防・救急課長　横田 真二 氏 「東日本大震災の被害状況及び消防の活動状況等について」

韓国は朝鮮戦争が終わってから60年が経過した現在でも、北朝鮮と緊張した状態にあります。近年でも天安号撃沈事件やヨンピョン島への砲撃事件など、断続的に軍事的摩擦が生じていることもあり、民防関係部署の再編成、民防訓練等の改革等について発表がありました。

日本側からは東日本大震災の被害状況や消防の対応、更にそれによって浮かび上がってきた防災体制・制度の問題点をテーマとして、消防庁の横田消防・救急課長が発表しました。東日本大震災に際して、消防の指揮を執られた方から被災状況とその後の対応に加え、現場で避難指示等に当たる市町村職員等をいかに守るか等といった課題についてお話をいただき、韓国側の関心も高く、大変意義深い研究会となりました。

CIRとは?

JETプログラムのうち、自治体の国際交流課等で国際交流活動に従事する国際交流員の名称です。

韓国CIRを活用して、韓国との関係強化を

韓国からのJETプログラム参加は1993年に始まり、これまでに300人以上が日本各地で活躍しています。

特にCIRへの希望者が多く、毎年、日本語能力やコミュニケーション能力に優れた方が選抜されています。何よりも、日韓の交流を深めることに熱意を持ち、意欲的に仕事に取り組んでいます。

CIRの業務は、翻訳・通訳、国際交流イベントの企画・実施、韓国からの訪問客の接遇など多岐に渡ります。姉妹都市交流や日韓直行便を活用した交流に加え、近年では経済活動が活発になっています。観光客の誘致や輸出・販路拡大などにおいては、関係機関との連携が重要な鍵となるため、韓国人の視点・感覚をもって連携をサポートするCIRはとても重要な存在になっています。

JETプログラム終了後は、日本での勤務経験を活かし、韓国政府系機関や自治体、在韓の日本政府や自治体の関係機関をはじめ、マスコミや日系企業、日本語教師、翻通訳者など様々な分野で活躍しています。中には、勤務した自治体の韓国駐在員として、観光PR活動や交流事業、経済活動を引き続きサポートしている方もいます。

今後、姉妹都市交流や観光客誘致、特産品の輸出・販路拡大など、韓国との連携強化を考えられている自治体は、重要な戦力となる韓国人CIRの 採用をぜひご検討ください。

現役CIRコメント　尹少榮（ユン・ソヨン）さん

岡山県の国際交流員の尹少榮です。岡山に来て5ヶ月が過ぎましたが、居心地がよくて前から岡山に住んでいた気がするほど馴染んでいます。

主な業務は、翻訳、通訳、出前講座、韓国語講座などです。中でも、チマチョゴリを着て県内の小・中・高校生に韓国の文化や言葉を紹介することに、一番やりがいを感じています。講座の準備は大変ですが、子供たちが気軽に韓国のことを楽しく学べることにつながっていると思います。

11月には、岡山県の友好提携先の慶尚南道で開催される特産物博覧会に岡山県のブースを出す予定なので、私の第2の故郷・岡山県をPRしたいと思っています。これからも両国の友好交流の促進になくてはならない存在になれるよう頑張ります。

自治体担当者のコメント
岡山県県民生活部国際課　今城　則昭さん

ユン国際交流員には、翻訳や通訳、韓国の情報収集、講座の講師はもちろん、韓国から観光取材が来た際のアテンド、プロサッカーチーム「ファジアーノ岡山」の韓国人選手へのインタビューなど、幅広い分野で大活躍いただいています。特に、小・中・高校での国際理解講座や、職員向けの韓国語講座では「ユン先生」として大人気です。300年以上の歴史がある「備中たかはし松山踊り」に浴衣姿で参加するなど、日韓の相互理解のための取組にも熱心で、流暢な日本語と明るくお茶目な人柄から、多くの県民に親しまれています。

今回、JETプログラムを活用することで、ユンさんのような貴重な人材が得られました。交流先である韓国・慶尚南道での事業はもとより、広く日韓交流の架け橋として、一層活躍していただくことを期待しています。

元CIRコメント　李銀映（イ・ウニョン）さん

2006年から3年間島根県文化国際課でCIRとして勤務した李銀映と申します。島根は「縁結びの地」で有名ですが、そのお陰か、任期後も島根との縁が続き、現在は島根県観光振興課所属の韓国駐在員の仕事をしております。

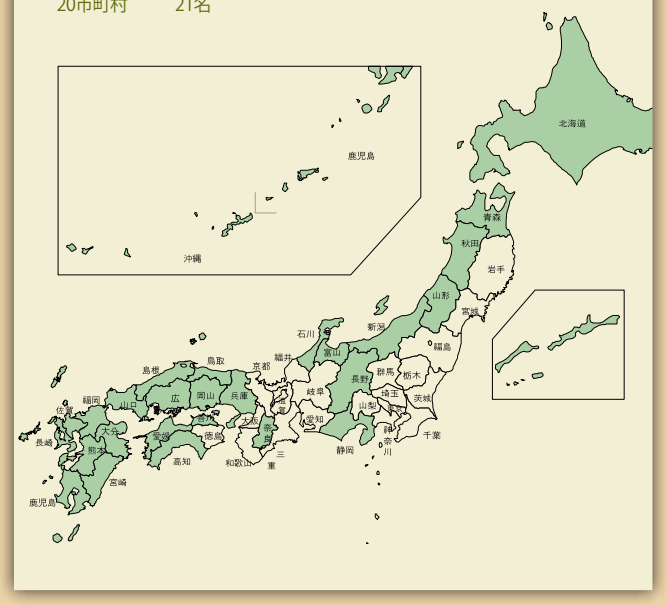
多くの人に島根県の魅力を知ってもらうため、観光プロモーションや情報提供などのコーディネート業務を行っております。

この業務を行う上で3年間のCIR経験が土台となっているのは言うまでもありません。特に「日本と韓国」だけでなく、「行政と民間」という面からも色々なことを学べた貴重な時間でした。

CIR業務は基本的に「間を繋ぐ」仕事だと思います。CIR現役の皆さんも、経験者の皆さんも'繋いでる、そして繋がってる'生活を送れますようお祈りします!

平成23年度　韓国人CIR配置状況

韓国人CIR	56名
うち26道・県	31名
4政令市	4名
20市町村	21名



行政中心複合都市「世宗市(せじょんし)」が新たに誕生します！

韓国では首都圏の過度な人口集中にともなう副作用を是正し、国土の均衡開発を図るため、新たな行政中心複合都市「世宗市」が2012年7月に誕生します。

1 経緯（これまでの流れ）

当初は全面的な首都機能の移転を目的に計画が立案されましたが、途中の憲法裁判所による違憲判決や政権交代などにより、度重なる方針の転換や紆余曲折を経て、現在に至っています。

年代	主な出来事
2002年	・盧武鉉大統領が大統領選挙の公約として「首都圏集中抑制と国土の均衡開発を目的に、青瓦台（大統領府）と中央省庁をソウルから忠清道に移転する」ことを表明。
2003年	・大統領直属の「新行政首都建設推進企画団」が発足。 ・「新行政首都建設特別措置法」が国会通過。
2004年	・国が「忠清南道の燕岐郡と公州市の一部」を首都移転先として決定。 ・ソウル市議、有識者、企業家等が「新行政首都建設特別法」の違憲判決を求めて提訴。 ・憲法裁判所による違憲判決「首都移転問題は憲法改正、または国民投票を通じて決定すべき事項であり、その手続きを経なかったのは違憲。」
2005年	・国が代案として「行政中心複合都市建設特別法」を国会に提出、通過。 ★青瓦台（大統領府）、国会、大法院（最高裁）、外交部、行政安全部等、3機関、6部は移転しない。
2006年	・国の行政機関として行政中心複合都市建設庁を設置。 ・新たな都市名を「世宗市」に決定。
2007年	・「世宗市」建設着手
2008年	・李明博大統領就任
2009年	・李明博大統領が世宗市修正方針を表明「行政都市から先端企業・教育都市へ」。
2010年	・国が行政機関移転を白紙化する「世宗市計画修正案」を国会提出。しかし、国会で否決。 ・世宗市建設計画の原案に基づいた「世宗特別自治市設置法」が国会通過。
2012年(予定)	・燕岐郡と公州市の一部等を編入して、7月1日付で「世宗市」が誕生予定。

2 行政中心複合都市（世宗市）の概要

世宗市は、政府直轄の行政中心複合都市として2012年7月に誕生する予定です。また、日本の都道府県レベルに相当する広域自治体としてのステイタスを有する自治体であるとともに、管轄区域には日本の市町村区に相当する基礎自治体を置かない特別な市となります。なお、世宗市の概要は以下のとおりです。

行政区域	現在の忠清南道燕岐郡、公州市の一部、忠清北道清原郡の一部を編入
面積	全管轄区域：465k㎡（ソウル特別市のおおよそ3/4の規模） 産業対象区域（中心部面積）：73k㎡
目標人口	50万名（目標達成予定年：2030年）
地理的特徴	ソウルから120km、大田と清州から10kmの距離

3 主な政府機関の移転計画の内容

世宗市の誕生に伴い、9部2処2庁など36個の中央政府機関が2012年から2014年までに順次移転する予定です。

移転する主な機関	国務総理室、企画財政部、国土海洋部、環境部、農林水産食品部、教育科学技術部、文化体育観光部、知識経済部、保健福祉部、雇用労働部、国家報勲処、法制処、国税庁、消防防災庁、公正取引委員会、国民検疫委員会
移転しない主な機関	青瓦台（大統領府）、国会、大法院（最高裁判所）、統一部、外交通商部、国防部、法務部、行政安全部

「幸福都市建設の狙いと事業の進捗状況、今後のビジョンについて」

行政中心複合都市建設庁　庁長　チェ ミンホ

世界化、地方化、及び知識情報化が急速に進む現代には、国家と地方のパートナーシップの下、すべての経済主体が最高の競争力を発揮する持続的かつ革新的な新しい成長戦略が必要です。

韓国政府は、このような認識から、第2の国家飛躍のために「国家均衡発展」を国政課題に位置付けました。このため、「行政中心複合都市」の建設、公共機関の地方移転、革新都市の建設、地方分権、及び東北アジア経済中心プロジェクトなどを有機的に連携して首都圏と地方の葛藤や対立構造を解消し、共に発展できるように導くことで、国家全体を発展させ競争力を強化することを模索しています。そして、首都圏には質的な発展を、地方には躍動的な発展の契機を用意し、全国がまんべんなく良い暮らしができるよう政策を推進しています。

行政中心複合都市の建設は、各種計画の樹立と補償手続を完了した後、2007年7月に起工式を行い、以後、順調に工事が進められています。この事業は、建国以来最大規模の国策事業であり、総合事業管理システムを導入して体系的で効率的な事業管理に努めています。移転する中央行政機関が入居する政府庁舎の建設も滞りなく進んでいます。なお、政府庁舎は現在のような権威的で閉鎖的な庁舎ではなく、低層で屋上には公園を設けるなど、開放的で親しみやすい建築物としています。

また、全国の主要都市から2時間内外で行政中心複合都市にアクセスできるように、道路の整備も本格化させました。周辺都市である大田、清州、公州、五松との連結道路など12の路線(114km、2.7兆ウォン)、鉄道との乗り換え施設、幹線急行バス体系(Bus rapid transit)等も計画しています。市民のための市庁舎、住民複合センター、学校、教育庁舎及び国立図書館などの公共施設も国費を投じて段階的に建設するとともに、新たに居住する住民の需要に応える住宅や基盤施設を安定的に供給するため、これらの敷地造成及び建設工事なども進めています。住宅7千戸,人口約1万8千人規模を想定した最初の住宅団地は、2011年末の入居を目標にしています。

2030年までに行政機能を中心とした複合型自足都市を建設するという「行政中心複合都市」建設事業は、国家均衡発展を先導して国家の競争力を向上するとともに、都市の生活水準を向上させて未来世代のための持続可能な世界的模範都市を誕生させるものと期待しています。特に、人口と各種インフラ施設の首都圏一極集中による様々な社会的非効率を最小化することによって、開発途上国はもちろん西欧先進国にも均衡発展のモデルを提示できると考えています。「幸福都市（※）」の建設を目指す、行政中心複合都市の未来に注目して下さい。

※行政中心複合都市を略すと「行複都市」となり、韓国語での発音は「幸福都市」と同じ「ヘンボクトシ」となる。

クレアソウルにおいては、韓国に駐在している日本の地方公務員の方々に、韓国の政治、経済、文化等についての理解をより一層深めていただくとともに、普段は各派遣先で別れて勤務している会員同士がネットワークを構築し、今後の業務遂行の一助とすることを目的としてクレアソウルセミナーを開催しています。

今回は、2011年度第2回目のセミナーとして、世宗市建設を担当している行政中心複合都市建設庁を訪問したところ、チェ ミンホ庁長がご多忙にも関わらず、自ら我々の質疑に応じてくださいました。

【建設中の政府庁舎のようす】

【世宗市の位置（韓国の地図）】

平素クレアソウル事務所の事業にご協力・ご参加賜り誠にありがとうございます。この「ニューズレター第5号」では、2011年度上半期の当事務所の活動状況を中心に、日韓交流の現場のホットな話題を満載して皆様にお届けします。

日本に未曾有の大被害をもたらした東日本大震災は、2011年度上半期の日韓交流にも多大な影響を与えました。特に韓国からの訪日観光客の減少を如何に回復させ、増加に転じさせるかは現下の大きな課題となっています。

我々クレアソウル事務所としても、機会あるごとに、日本の自治体の元気な姿を韓国の皆様に幅広くご紹介するほか、自治体の取組みに連携し支援する形でプロモーション活動などを精力的に行っているところです。もとより温泉、名勝地、食文化など日本の地域は魅力十分。あとはV字回復するタイミングを待つばかり、というところでしょうか。

もうひとつ、このたびの大震災が日韓の友情や絆の深さを再確認する機会になったという点を忘れてはならないと思います。大統領から市井のアジュンマに至るまで、いろいろな方々から日本と日本人に対して心からの温かいお見舞いをたくさんいただきました。

これら韓国の皆さんの心のぬくもりをそのまま日本に伝え、そして日本の元気な復興の姿を韓国の皆さんに伝えることにより、日韓の絆がさらに深まり、交流の輪がますます広がるよう、我々所員一同力を合わせて取り組んでまいります。

クレアソウル事務所長 **安本 俊夫**

所長 **安本 俊夫** yasumoto@clair.or.kr

次長 **大西 公一郎** onishi@clair.or.kr

企画調査チーム

所長補佐 **鈴木 史朗** **[長崎県]**
栃木県、群馬県、埼玉県、佐賀県、長崎県担当
suzuki@clair.or.kr

所長補佐 **武藤 晶子** **[福島県]**
宮城県、山形県、福島県、三重県、奈良県担当
muto@clair.or.kr

所長補佐 **萬谷 治子** **[京都府]**
滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県担当
mantani@clair.or.kr

所長補佐 **中村 大志** **[静岡県]**
山梨県、長野県、静岡県、愛知県担当
nakamura@clair.or.kr

調査員 **尹 瑜 珍** yun@clair.or.kr

観光チーム

所長補佐 **小椋 大** **[宮崎市]**
東京都、福岡県、大分県、宮崎県担当
ogura@clair.or.kr

所長補佐 **石塚 大地** **[鹿児島県]**
千葉県、熊本県、鹿児島県、沖縄県担当
ishizuka@clair.or.kr

所長補佐 **松崎 謙二** **[松山市]**
神奈川県、和歌山県、岡山県、松山市担当
matsuzaki@clair.or.kr

所長補佐 **上田 将章** **[鳥取県]**
鳥取県、島根県、広島県、山口県担当
ueta@clair.or.kr

調査チーム長 **朴 永 蘭** park@clair.or.kr

調査員 **李 貞 欣** leejh@clair.or.kr

物産チーム

所長補佐 **木村 朋宏** **[愛媛県]**
茨城県、徳島県、香川県、愛媛県（松山市を除く）、高知県担当
kimura@clair.or.kr

所長補佐 **川村 祥生** **[富山県]**
新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県担当
kawamura@clair.or.kr

所長補佐 **塚本 敦** **[秋田県]**
北海道、青森県、秋田県、岩手県担当
tsukamoto@clair.or.kr

調査チーム長 **嚴 泰浩** eom@clair.or.kr

凡例

職名	**氏名 / 派遣元**
活動支援担当地域	E-mail アドレス

各自治体からのご連絡をお待ちしております。

CLAIR
大韓民国 ソウル特別市 鍾路区 鍾路1 教保B/D 17層
Tel. 82-2-733-5681 Fax. 82-2-732-8873 e-mail. info@clair.or.kr http://www.clair.or.kr